



参画だより

No.39
2009.11.30
弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む 世界の格言・名言

あらゆるもののが
一個の全体を織り成している。
ひとつひとつが
互いに生きて働いている。

ゲーテ「ファウスト」より



弘前市民参画センター事業紹介「市民参画センター交流まつり」ほか P 2・3

まなぼ「子育て・自分育て・明日作り」第2回 P 4

おとこの気持ち聞いたやいました「厳しいなかにも」 P 5

さんかくひとりごと「自慢のお弁当を作っているのは……」 P 5
ひと グループ

男女・団体 紹介「楽しい職場には男女それぞれの感性が生かされている」 P 6

利用者・利用団体紹介「津軽かたりべの会」ほか P 7

本の紹介「夫と妻のための新・専業主婦論争」 P 8

センターからのお知らせ P 8



第6回市民参画センター交流まつり

人がふれあい人が輝くまち
あなたのキラッ！をみつけませんか



福祉施設による
クッキーなどの販売コーナー

☆各団体活動発表☆

今回の交流まつりでは、希望した利用団体による活動発表会が行われました。自然保護活動団体の「ウォッチング青森 弘前グループ」は、華やかな衣装でフラダンスを披露しました。



さまざまな切手の
魅力を紹介



華やかな衣装で
フラダンスを
披露

9月27日、「第6回市民参画センター交流まつり」を開催しました。このイベントは、日頃市民参画センターを利用している団体が活動内容を紹介し、他団体や市民との交流を深める場として毎年実施しています。今年は約20の団体が参加し、パネル展示や活動発表を通してグループのPRを行いました。

「アート」をはじめ、切手収集家の会、「(財)日本郵趣協会弘前支部」、郷土史研究サークル「陸奥史談会」など7団体が、日頃の活動や研究の成果を来場した市民に向けて紹介しました。

また、「新日本婦人の会弘前支部」のメンバーは練習を重ねたフラダンスを披露し、大きな拍手を浴びていました。



「まちづくり」への
思いを語る向後さん

☆記念講演会☆

記念講演会「ローカル鉄道とまちづくり」

「ローカル鉄道とまちづくり」は、一般社団法人交通環境整備ネットワーク常務理事の向後功作さんを招いて行われました。向後さんは、銚子電鉄運行維持のために、副業として製造していたぬれ煎餅の購入を呼びかけて話題となつた銚子電鉄の社員でもあり、一連の騒動の舞台裏と、まちづくりにおけるローカル鉄道の役割について講演しました。

向後さんは「まちづくりは新しい名物や施設をつくることは限らない。伝統や文化を継承する仕組みをつくること」と話すと、その中でローカル鉄道は「まちづくりにおける可能性がある」と語りました。

会場には各団体が作成した活動紹介パネルが展示されました。男女共同参画推進活動や子育て支援、高齢者の生涯学習の様子などを紹介する数々のパネルを眺め、来場した人たちはさまざまな活動に 관심を寄せていました。

さんが語るまちづくりの事例に耳を傾けていました。講演会のほか、「セミナー・ハンサムウーマン」の企画による、向後さんを囲んだワーキングショップの時間も設けられ、まちづくりの課題や展望について活発な意見交換が行われました。



展示された
パネル

さまざまな切手の
魅力を紹介

記念講演会にはまちづくりに携わる市民やローカル鉄道の関係者らが聴講に訪れ、熱心に向後

弘前市民参画センター事業紹介



青森県の食生活などについて講演する成田さん

成田さんは、「山村にはより古い事柄が残されている」と、昭和26年に調査された西目屋村砂小瀬地区をはじめ、南部地方や下北地方の暮らしを紹介。女性たちが担つていた衣食住の面を中心に、物のない時代を生きるためのさまざまな工夫について説明しました。津軽と南部で異なる味噌の作り方や、自らの手で装飾を施したこぎん刺し、古着を利用した裂織りの発達

馬館で「第2回ひとにやさしい社会推進セミナー」を開催しました。今回のセミナーでは、前青森県立郷土館学芸課長の成田敏さんが、山村に暮らす女性の生活について講演しました。

成田さんは、「山村にはより古い事柄が残されている」と、昭和26年に調査された西目屋村砂小瀬地区をはじめ、南部地方や下北地方の暮らしを紹介。女性たちが担つていた衣食住の面を中心に、物のない時代を生きるためのさまざまな工夫について説明しました。津軽と南部で異なる味噌の作り方や、自らの手で装飾を施したこぎん刺し、古着を利用した裂織りの発達

などから、それぞれの風土に根ざした生活の様子が垣間見え、成田さんは「食料や道具が限られた厳しい環境の中でも、女性はたくましく生きていたことがわかる」と話しました。



女性グループによるミニ炭俵づくりの実演

第2回ひとにやさしい社会推進セミナー 〈故きを温ねて新しきを知る口〉 「山村における女性の暮らし」

「さんかくネット」つどいの広場・子育てサポーター研修会

9月6日、子育てサポーターと、子育て中の家族との交流等を目的とした「さんかくネットつどいの広場」が市民参画センターで開かれ、多くの親子連れが訪れました。

広場では、地元地方紙に育児日記を連載中のコラムニスト、山田スイッチさんをゲストに迎え、「子育ては二人目からが本番」と題し、参加者とのフリートークを行いました。スイッチさんは、自身の経験談も交えながら、「ひとりで育てようしないで、一時預かりや子育て支援センターを利用しましょう」とアドバイスしました。

10月4日には、今年度2回目の「子育てサポーター研修会」を実施しました。今回の研修会ではサポーター同士の活動報告と意見交換が行われ、多様化してきた託児依頼への対応や支援の方法などについて話し合いました。

また、弘前大学教育学部4年生の鳴海麻希さんが研究発表をしました。市内の子育て中の女性にアンケートを実施し、どのような子育て支援が求められているかなどを集計した結果が報告され、サポーターたちは今後の活動の参考にするため、真剣な表情で聞いていました。



フリートークの様子
(9月6日)



研究発表を聞くサポーター
(10月4日)

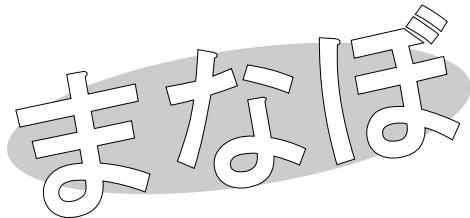
「子育て・自分育て・明日作り」第2回

一條敦子（平成21年度連載担当）

博士（学術）。専門は成人教育（女性教育）、子育て支援、まちづくり。

学習企画集団「COCOAあおもり」・生活者支援団体「ふれ～ふれ～ファミリー」代表。

男女共同参画社会と子育て支援について、シリーズでお伝えします。



子育て支援は、子育ての大変さを共感し、共有し、一歩ずつ

★ やはり子育ては大仕事

子育ては人生の大きなイベントのひとつです。子育て中のお母さんの話を聞いていると、子育ての問題や不満は大きく二つに分けられるような気がします。ひとつは上手に育児できないこと、もうひとつは自由な時間がないことです。このような不満が募ってくると、ちょっとしたミスに大声を出して、そんな自分に落ち込む…そんな経験は誰にでもあるはずです。

★ 女性の個人化志向は社会の産物

昔、女性は結婚前は親に扶養され、結婚すると嫁として夫やその家族に扶養され、一生を終えるのが一般的でした。今は電化製品が普及して家事労働が省力化され、またサービス業が増加したため女性労働は促進されました。女性の学歴も高くなり、多くの女性は娘・妻・主婦・母だけではなく、固有の名前をもった「個人」として生きる経験を得たのです。時代

★ 『人間だもの……』

すべての生き物は、「自分の生存と発達」と「種の保存」をプログラミングされています。自分の命を守り、より幸せに満足して生きたいと願い、そんな世の中を子どもに伝えたいと思う、それは当然の欲求です。子育て中の女性にも、安心して幸せに生活し、自分が成長する時間や場所が保障される必要があるの

★ 私から築く男女共同参画

自分の価値観だけで「それは変だ、間違っている」と誰かを我慢させるのではなく、その人が抱えている不安や悩みをちゃんと聴き（共感し）、どうしたら解決できるか一緒に考え（共有し）、改善する努力が必要だと思っています。「女性も男性も子育てに関わる、でも自分の時間も尊重できる生活を守る」これは男女共同参画社会の考え方と同じです。

男女共同参画社会の実現に向けて様々な政策が出てきました。確かに政策は社会の変化に影響を

単純に比べることは出来ませんが、こうした不満は働いている母親の方が少ないようです。働いている女性は、一人の時間をもてる、仕事を終えたときに達成感を得られるなどという点が、育児専業の女性の生活との大きな違いと言われています。子どもと一緒に向き合い、自分の時間ももてず誰からも認められない、そんな不満や不安が膨らむと爆発してしまうこともあるのです。

と社会の変化が女性の人生と意識を変化させてきたのです。「個人」として責任をもって生きていくように訓練されてきた女性に、母親になったのだから「個人」を尊重する生き方ではなく、子どもと家族のために生きなさい、と言うのでは、女性を混乱させ、不安にさせるのは当然のことです。

です。不安や悩みを解消することも子育て支援です。育児不安は女性だけのものではなく、男性も育児休暇を取り同じ状況になれば同様な気持ちを味わうことが報告されています。働いている父親・母親、育児専業の母親そして父親も「個人」として自分が成長する時間をもてるような子育て支援が望まれます。

与えますが、市民の小さな生活の変化・考え方の変化によって、大きな社会の変化をつくりだせるのではないかでしょうか。個人の問題は社会の問題につながっています。不安や悩みを持つことは恥ずかしいことではありません。不安や悩みを話せる相手と場所をみつけることから新しい生き方が始まるはずです。男女共同参画社会はあなたの一步から築かれていくのです。

生活者支援団体「ふれ～ふれ～ファミリー」……私たちが幸福を実感できるように、みんなでみんなの暮らしをサポートし、みんなでみんなの暮らしを創っていくことを目指しているグループです。現在の主な仕事内容は、有償で託児や草刈り、小さなお子さんを抱える家族や介護の必要な方のいる家族の生活支援として家事のお手伝いなどのサポート活動を行ったり、これから弘前のまちづくりを、中心商店街の活性化や観光事業をメインに企画する活動を行っています。

おとこの気持ち・さんかくひとりごと

Q. 男女共同参画を知っていますか？

A. 聞いたことはあるけれど、よくわから
ない。

Q. 男女は平等だと思いますか？

A. おそらく女性から見ると平等ではな
いと思います。平等がどの程度のもの
を示すのかはわからないけれど、様々
な面において男性と女性はそもそも
違うのではないか。

Q. どのような時に男性と女性の違いを感
じますか？

A. 自分の仕事に関して言うと、同じ仕事
をしていて女性はやはり体力がない
のでその点では限界があるなと思う
ことがあります。

Q. ご家庭の家事等はどうしていますか？

A. 妻も仕事をしているので、忙しいとき
は自分が子どもの食事なんかは作っ
たりします。子どもは喜んで食べてく
れます。

おとこの気持ち



50代・自営業・既婚

インタビューを終えて

～厳しいなかにも～

洋菓子作りの仕事をされているAさん。創作
力はもちろん、かなりの体力も求められる世界
で率直な女性への感想を言い切るところが、職
人の方らしいなあと思いました。ご自身は亭主
関白という事でしたが、妻が出来ない時は自分
で…と言えるのは相手への思いやりも忘れない
証拠ですよね。

maki

自慢のお弁当を作っているのは……

共働きの私の家では、子どもたちのお弁当は父親の私が作っています。

子どもたちには、お母さんがお弁当を作ることが当たり前のこ
とはないと話していますし、小さい頃から家事をする父親を見ているので、
違和感を感じていないようです。

あまり繊細な作業は得意な方ではありませんが、その分気持ちを込め
て！作っており、子どもたちからは結構評判です。

将来、自分のことは自分でできるようにと、一緒に料理を作ったり、味見
をさせて子どもたちを巻き込んでいます。それを子どもたちも楽しんでい
るようです。



さんかくひとりごと

これは、友人から聞いた話です。
この家庭がとても幸せに生活していることが想像されました。
食事を通しての男女共同参画の教育もできるのだなあと嬉しく
なった話でした。



「楽しい職場には男女それぞれの感性が生かされている」

自動車販売店勤務 神山三江子さん



～神山さんの紹介～
北津軽郡板柳町生まれ
平成18年ネットヨタ
みちのく弘前店に就職

男性が多い、ディーラーという職場で、いつも笑顔を絶やさず働いている神山三江子さんに話を伺つてみました。

☆この職業に就くことになったきっかけは？

この会社に勤務する前は、販売員をしていました。しかし、会社が破綻し失業してしまいました。次の仕事は何がいいかと考える余裕はなく、とにかく働く場があれば働きたいと切羽詰まるくらい不景気な時期でした。そこで、ほとんど毎日、職業安定所に通っていました。そこで、目に留まつたのが「洗車業務。女

性。資格：自動車普通免許。高齢者雇用推進中」という募集でした。「これなら私にもできるかも…いや、やってみたい！」という思いで、早速履歴書を送りました。結果は合格で私の新しい仕事はスタートすることになりました。

☆紅一点の三年間はどうでしたか？

ディーラーといえば車の販売をしているところという知識しかなかつた私は、最初の頃は正直不安でした。圧倒的に男性が多い職場で自分が溶け込んでいけれるのだろうか、どうすれば溶け込めるのか？ そんなことばかり考えていました。女性という区別ではなく、仕事の仲間と考えられるようになります。しかし、私には毎日たくさん

環境と仕事の内容に慣れていくと、洗車業務の他に新車の納車準備としてのワックスコーティング施工作業も業務として増えました。忙しい毎日ですが、与えられたひとつひとつの仕事を一生懸命に続けていくことで達成感がうまれ、それが楽しさへ変わりました。ボディーの汚れ落としや傷消し、車内清掃はお客様の要望に応じていかなければなりません。最初はわからぬことが多くありました。他のスタッフに聞いたり、自分なりに試行錯誤しながら方法を見つけるなどして要望に応えられるようになりました。今では、男性

☆男女共同参画について
当社では、1日の最初の仕事は掃除です。役職も性別も関係なく、全員が掃除用具を持っていつせいに掃除を行なつている様子を見るのはとても気持ちがよいものです。男性が得意な仕事というものもあると思いますが、女性の視点で見てわかることがあります。男性が得意な仕事といふこともあると思います。それぞれの感性を大切にしつつ、一人ひとりが「この会社に必要な社員」として存在することが、楽しい職場につながるのではないかと思っています。

☆今後の目標は？

今年9月から新たなカー用品販売コーナーが導入されました。これにより、私の担当業務は

忙しさで最初の頃にあった不安を考える暇もないくらいに忙しくなつていきました。少しずつ、慣れない仕事をしている疲労感と

いつそう広がりました。洗車のほか、ガラスコート、レンズクリーナーなどこれまで以上にカーメンテナンスメニューが増え、それらをお客様の要望に応えて提供することができます。ようになりました。これからは、より高い満足を得てもらえるよう、技術の向上を目指していきたいと思っています。「やってみたいなあ」と思われた方は是非一度ご来店ください。



「津軽かたりべの会」

心をこめて昔話を語る会

毎週、土・日・祝日『弘前市りんご公園』とJR列車『リゾートしらかみ』にて2名ずつ昔話を語っています。その他にりんご園で子どもたちや学生、観光客等に心をこめて昔話を語ります。

定例会は、毎月第一・三の金曜日、午前10時～12時まで市民参画センターで行っています。会員数24名（男性2名、女性22名）で

弘前市民参画センター利用団体紹介

《津軽かたりべの会》

会費はありません。
定例会では『りんご公園』や『JR』に対する要望や意見、お客様からの声等を話し合い、その後は会員の語る昔話を今度は客の立場で聞いて、言葉の綴り、声の強弱等を話し合い、切磋琢磨しております。

特に間違った津軽弁の使い方をしない。身分、階級（士農商）戒律の厳しい時代にその生活使わない。着る物、持物、道具、食

物、街道、距離、要した日数、時刻、金銭の価値等を正確に調べることで、本や原稿を読んで暗記して語る話と、心の中に知識を蓄えて語る話の違いを認識できればと思っています。

会員には「人様（特に子ども）に理屈の通らぬ話はするな！」なども理屈の通らぬ話はするな！ 子どもは変だと感じた

意し檄（げき）を飛ばします。「それで文句があるなら丑三

センター利用者に突撃インタビュー

70代・男性

◆当センターの利用頻度と利用目的は？

平均すると月1回ぐらい。ほとんどが印刷機の利用です。町会の仕事をしている関係で、印刷できるところを探していたところ、知人がここを教えてくれました。それからずっと通い続けています。とても助かっています。

◆男女共同参画という言葉は聞いたことがありますか？

現役で働いている頃はまだそのようなことはありませんでしたが、最近はよく見聞きするようになりました。

◆社会や家庭において男女は平等な関係にあると思いますか？

私の家庭ではそうだと思います。私自身ずっと共働きしてきましたし、働きながら子どもを育てる大変さは理解しているつもりです。近くに住む息子夫婦もそうなので、協力し合うように言ったものです。私自身も日常の買い物、妻の運転手、孫の保育園や習い事の送迎を一手に引き受けています。

◆今、一番の楽しみ（興味・趣味）は？

写真や山歩きが好きなので、自分の時間ができたらと思っていましたが、「さあ、これから！」という時に孫育ての仕事が舞い込みました。好きな写真も現在は孫たちが被写体です。カメラを意識したポーズではなく、自然な姿を撮りたいので、シャッターチャンスを逃さないよう、楽しみながら撮っています。しばらくはこの状態が続くようです。



楽しいお話をたくさん聞かせていただきました。にこやかなお顔にその優しさがあふれています。限られた紙面で紹介しきれなかった思いが残ります。ご協力ありがとうございました。
by komori



会長 菊地菊代

平成 20 年度利用状況報告

☆ 弘前市民参画センター

☆ センター利用者数

利用場所	利用者数	
	20年度	19年度
グループ活動室（有料）	13,797	12,545
ふれあいホール等（無料）	14,417	14,633
利用者数計（小計）	28,214	27,178
見学者	2	8
合計	28,216	27,186

☆ 別活動教室・利用目的

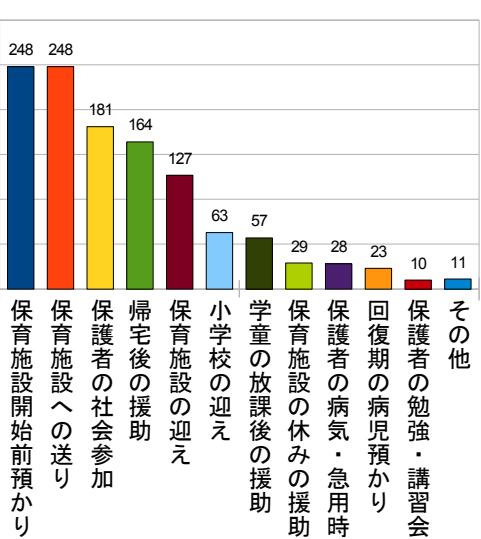
利用目的	利用団体		公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	14	236	196	2,480	210	2,716		
講習会・研修会・勉強会・講座	10	292	529	7,293	539	7,585		
講演会・フォーラム	0	0	13	466	13	466		
その他	15	403	195	2,627	210	3,030		
合計	39	931	933	12,866	972	13,797		

☆ 利用件数・人件数

☆ さんかくネット

利用件数	20年度		19年度	
	依頼件数	預かり人数	依頼件数	預かり人数
個人	770	865	728	829
団体	76	374	80	474
合計	846	1,239	808	1,303

☆ 利用内容別件数（個人）



【お知らせ】市民参画センターは、12月28日（月）から1月3日（日）まで休館します。

編集後記

いよいよ冬がやってきますね。私は年々この季節になると気持ちが落ち込んでしまいます。先日の新聞に落ち込んだ憂鬱な気分を解消してくれる「オレンジ色」の話が載っていました。そこで今年の冬は、思い切ってオレンジ色に挑戦してみようかなあ!?と思ったりしています。

yoshi



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

本の紹介

タイトル

「夫と妻のための
新・専業主婦論争」

中公新書ラクレ編集部 編
中央公論新社 刊



「専業主婦」論争から生き方を考える

20世紀末に、後世から「第4次」と呼ばれることがあるかもしれない「主婦論争」が起こったという。パソコン通信での議論をもとにした単行本「ふざけるな専業主婦」の刊行を契機に、その著者がテレビの討論番組で論客と議論したり、雑誌の企画のネタになったり、ネット上では匿名のユーザーが掲示板で火花を散らすなど、バラエティーに富んだ広がりを見せたが、その波紋が残る2002年3月に出版された本である。

これまで何かと議論になってきた「専業主婦」。この「専業主婦」をキーワードにいろいろな人たちの論文やエッセイ、対談が集められている。専業主婦を経験したことが無い人も、ずっと専業主婦だった人も、それぞれの立場でこれまでの自分の生活を見直し、これから生き方を考える機会を得ることができるのではないかだろうか。単に「専業主婦」は是か非かの論争ではないので、読んでいるうちに「ちょっとこれは……」と思うところもあれば、「ああ、こういう考え方もあるんだなあ」という新しい発見もある。読み手に考える時間を与えてくれる本である。

女性の社会進出が進んだとはいえ、結婚、出産を機に専業主婦の立場を選ぶ、または選ばざるを得ない人たちがなんと多いことか。専業主婦に対するアンケート調査の結果なども興味深いところだったが、特に「専業主婦の現在・過去・未来」の章では、専業主婦の歴史や現状、今後のゆくえ、専業主婦の年金問題、英国での専業主婦ブームなど、内容が多岐にわたっていてとても読み応えがあった。

by komori

